

講壇点滴

伝道旅行に送り出される

使徒言行録一三章一〜一二節

牧師 姜 涇 米

「パウロとも呼ばれていたサウロ」の活動が前面に出てくるのは、ここからです。それは、「伝道旅行」が始まるからです。聖書の後ろの付録の地図七、八、九は、パウロの宣教旅行と、ローマへと護送された旅についての地図です。一三章以下にはこれらの地図に関わることが語られていて、使徒言行録一三章のはじめには第一回伝道旅行への出発と、最初の伝道地キプロスでの活動が語られています。

大事なことは、この伝道旅行は個人の決意や意志によって始まったものではなく、アンティオキア教会の礼拝と祈りの中で、聖霊によって示されたものであり、そのために二人が任命され、遣わされて開始されたもの、だということ。そのことが、二、三節に示されています。

礼拝と祈りに生きる教会に、聖霊の示しが与えられます。聖霊の示しはバルナバやサウロ個人に与えられたものではありません。彼らが「伝道旅行に行きたい」という志を与えられたのではなく、聖霊が二人を指名したのです。つまり、伝道旅行が行われることも、またそのために遣わされるのも、全ては聖霊が、神様が教会にお命じになったことだった

のです。アンティオキア教会はこの聖霊の示しを受けて、三節にあるように、それに従ったということです。

バルナバとサウロはここで、アンティオキア教会によって立てられ、伝道へ派遣されました。アンティオキア教会は、礼拝と祈りの中で示された神様のみ心を受け止めて、それを教会の業として位置づけたのです。こうして、この伝道旅行は、アンティオキア教会の働きとなりました。実際にそれをしていくのはバルナバとサウロであっても、その働きはアンティオキア教会によって立てられ、派遣されていることなのです。

「出発させた」と訳されている言葉は、「派遣した」という言葉ですが、「解放した、解き放った」という意味も持っています。アンティオキア教会が二人をこの伝道の業のために解き放ったと言うこともできます。バルナバとサウロは、教会の大切な指導者たちです。教会の人々に、またアンティオキアのまだ福音にふれていない多くの人々に、神様の言葉を告げ知らせる働きを担っていた人々です。できることなら彼らにずっとこの町で伝道を続けて欲しいという思いもあったと思います。しかしアンティオキア教会の人々は、神様がお示しになった伝道の計画に従い、自分たちの大切な指導者を伝道旅行へ派遣したのです。

このようなことによって、パウロの伝道旅行が行われ、世界の各地に教会が生まれていったことを私たちは忘れてはなりません。教会が生きているというのはこういうことです。聖霊によって生き生きと生かされている教会

は、外に向かって、また主イエス・キリストの福音を知らない世の人々に向かって、それを宣べ伝え、人々を招き、迎え入れていくという思いを持つのです。
(二〇二五年一月二六日公同礼拝)

四月講壇一覧

第一主日 (四月六日)

公同礼拝・夕の公同礼拝

「主にあつて一つ」

山北宣久牧師

第二主日

(四月一三日 棕櫚の主日・受難週礼拝)

公同礼拝

「十字架をめぐる人間模様」 山北宣久牧師

「マタイ二七・三二〜四四

夕の公同礼拝

「主イエスの十字架」

姜涇米牧師

第三主日

(四月二〇日 イースター復活日礼拝)

公同礼拝

「ガリラヤに行け」

山北宣久牧師

「マタイ二八・一〜一〇

夕の公同礼拝

「復活の光の中」

姜涇米牧師

第四主日 (四月二七日)

公同礼拝

「生ける神に立ち帰るように」 姜涇米牧師

使徒言行録一四・一〜二〇

夕の公同礼拝

「金銭授受」

山北宣久牧師

「マタイ二八・一一〜一五